松原市立　布忍小学校

インターナショナル・セーフ・スクール（ＩＳＳ）

本認証に向けた申請書

２０１７年　１１月１４日

松原市立　布忍小学校

もくじ

第１章　布忍小学校の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

第２章　インターナショナルセーフスクールへの取り組み・・・・・・・・・・・・・・・６

第３章　こころとからだの「けが」をめぐる本校の状況・・・・・・・・・・・・・・・・９

第４章　けがの発生状況に基づく重点課題の設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９

第５章　８つの指標に基づいた取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０

指標１　協働を基盤に安全向上に取り組む運営基盤が整備されている・・・・・・・・・・・２０

指標２　取り組みの方針は自治体や教育委員会の方向性と一致している・・・・・・・・・・２３

指標３　すべての性別・年齢・状況をカバーする長期的かつ継続的なプログラム・・・・・・２５

指標４　ハイリスクのグループや環境を対象とした取り組み・・・・・・・・・・・・・・・３４

指標５　入手可能な根拠に基づいた取り組みを実施する・・・・・・・・・・・・・・・・・３７

指標６　外傷の発生頻度や原因などを記録するプログラムがある・・・・・・・・・・・・・４３

指標７　学校政策、プログラムおよびそのプロセスが変化したことによる効果を

評価する方法がある・・・４５

指標８　地域内、国内・国際的なネットワークへ積極的に参加している・・・・・・・・・・４８

第６章　安全な学校づくりに向けての今後の取り組みと展望・・・・・・・・・・・・・５０

第１章　布忍小学校の概要

１　学校教育目標、校章

教育目標

「感じ、考え、行動する」児童を育成する学校づくり

～学力向上と集団づくりを柱として～

布忍小学校の創立は１８７４年。現在の校章は、１９５３年に制定されました。

松原の「松」と、学校や学校の周辺に多くある桜の木からデザインされています。桜の季節に新学期を迎え、新しい児童を迎える学校を、地域があたたかく見守るという心を形にしたものです。

2　学校規模

本校は、児童数３８１名の中規模校で、ここ数年の児童数は４００名前後で推移しています。

これは松原市では平均的な児童数です。

今年度の学級数は１６学級（各学年２学級、支援学級４学級）です。

２０１７年５月１日在籍者数				支援学級在籍者数（内数）		
学年	男	女	計	男	女	計
1年	31	18	49	2	2	4
2年	37	27	64	5	0	5
3年	27	35	62	7	0	7
4年	32	40	72	4	1	5
5年	28	24	52	0	0	0
6年	33	27	60	1	0	1
計	**189**	**171**	**360**	**19**	3	**22**

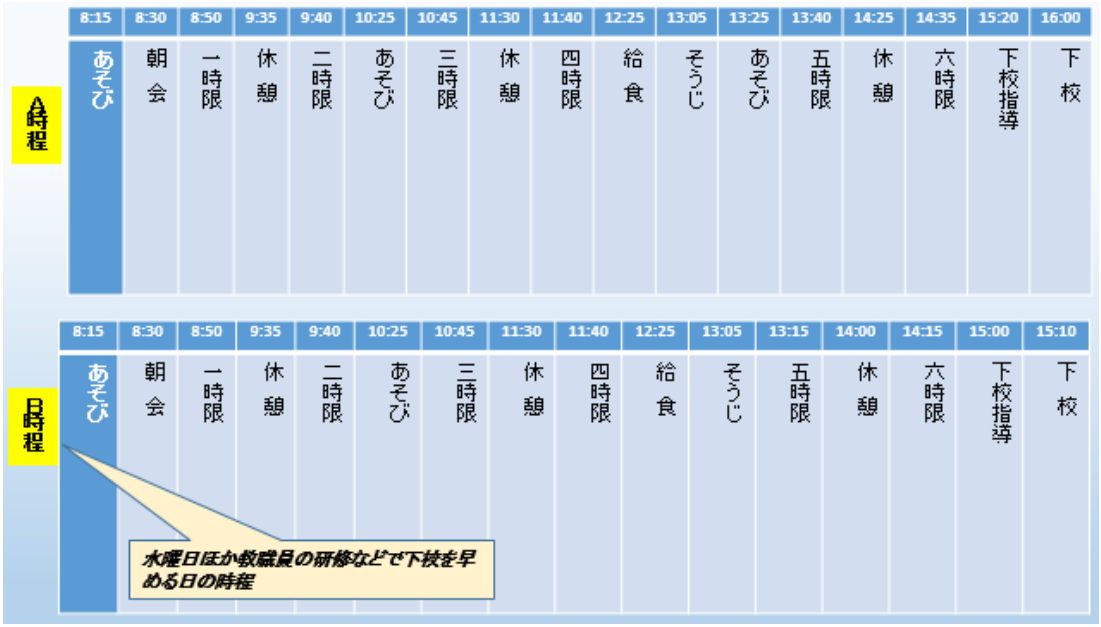
【図表１】

3　日課表

年間三学期制をとっており、１学期は４月から７月中旬、２学期は９月から１２月下旬、３学期は１月上旬から３月下旬までとなっています。各学期の間に休業期間があり、１学期と２学期の間の夏期休業は約４０日間あり、長期休業となります。日課としては、朝の始業は８：３０からで、１時限目は８：５０分より始まります。１時限は４５分間でなっており、午前中に４限目まで行います。時限ごとの業間には休み時間

が設定されています。午前の授業が終わると、給食、掃除と続き、昼休みを挟んで午後の授業が５限目、６限目と続きます。

本校では始業前や業間、昼休みなどに、集団で遊ぶ取り組みを重視しています。その目的は、心身の育成と他者と協力する力の育成です。体を動かすと学習もはかどります。鬼ごっこやじゃんけんふえ鬼などの走る遊びや、ドッジボールなどのボール遊び、陣地取りなどの地面を使った遊びなど遊びの種類は多く、バラエティに富んでいます。



【図表２】

４　本校の位置と通学路

本校の校区は、南北に広がっています。北の端から学校まで、歩いて３０分ほどかかります。子どもたちは歩いて学校まで登校します。自転車や車での登校は許可していません。同じく三中校区で ISS に取り組んでいる中央小学校の校区とは隣り合わせです。

校門は、幹線道路である大和高田線側にあり、児童はこの門を通って登校します。大和高田線は交通量が多く、交通事故もよく起こっています。

※校門の真向かいに大きな病院、校門に並んでコンビニがあり、そこへ出入りする自動車が多いです。

※校区南地域に住む児童は、安全のため、陸橋を渡って登下校します。

校区内には狭い道が多く、交通量も多いので、従来からたくさんの地域の方々や保護者が登下校の見守りをしてくださっています。

（松原市セーフコミュニティ「交通安全対策委員会」作成「交通安全ポイントマップ」より）

第２章　インターナショナルセーフスクールへの取り組み

１　取り組みの背景

○松原市

２０１１年　5 月　　澤井市長がセーフコミュニティ（SC）の取り組みを宣言する

２０１３年 11 月　　セーフコミュニティの国際認証を取得

○松原第三中学校区

2015 年 5 月　　松原第三中学校区として松原第三中学校、中央小学校、布忍小学校がインターナショナルセーフスクール（ISS）の取り組み宣誓式を行う

2016 年 11 月　インターナショナルセーフスクール（ISS）の事前指導を受ける

2　これまでの取り組み状況

【取り組みの経緯　２０１５年度】

	学校内の取り組み	保護者や地域	ISSネットワーク
5月	5月21日着手表明		三中校区着手表明式
6月	安心・安全の集会、集団下校	地域、保護者への着手表明	
7月		学校評議員会議への着手表明	亀岡へ視察
9月	校内体制づくり		三中校区ISS学習会
	児童の取り組み開始		松原市SC報告会で市民への着手表明
10月	児童朝会で保健部宣言		厚木市、豊島区へ視察
11月			三中校区で研究発表
			子ども議会で質問（段差解消）
12月	キャラクター募集		市と連携した防災訓練
1月	学校保健会議課題共有	校医へのISS説明	
2月		PTAでISS部ができる	セーフスクールサミットin豊島へ参加
3月	キャラクター決定「セーフィー」		

【取り組みの経緯　２０１６年度】

	学校内の取り組み	保護者や地域	ISSネットワーク
4月	学校体制にISS部を位置付け	PTAにISS部を位置付け	
5月		PTAによる図書ISSコーナー新設	三中校区地域教育協議会でISS学習
6月	安心・安全の集会、集団下校		豊島区視察
	ぬのしょう、タウン・ワークス		
	全校ISS集会		
7月	校内安全マップづくり	校内安全マップづくり	三中校区ISS子ども会議の立ち上げ
	児童から要望		豊島区から視察、中央小にて交流
	子ども議会で市長に質問		
9月	要望に応じ、カーブミラーつく		SC報告会で取り組み報告
	ISSの視点で体育大会		
10月	ろうかに白線、階段にけが防止のよびかけ	ヒューマンタウン・フェスタ（三中校区の保護者、地域、子どもによるまつり）	ISS子ども会議
11月	ぬのしょう、タウン・ワークス	PTA講演会「インターネットトラブルの現状」	三中校区で研究発表 ISS子ども会議 豊島区本審査、厚木認証式に参加
12月		防災訓練（保護者、地域と）	
1月	ISS国際認証事前審査	地震避難訓練	三中校区ISS子ども会議「いじめをなくすために」
2月	全校ISS児童集会		市ISS推進委員会

【取り組みの経緯　２０１７年度】

2017	学校内の取り組み	保護者や地域	校区ネットワーク
3月	校区ハザードマップ作り	校区ハザードマップ作り PTA携帯電話の危険性学習会② LINEワークショップ	
4月	★事前指導をうけて 校内全体研修「本校のISSの取り組みについて」新転任者へ取り組みの説明 ★事前指導を受けて 対面式にて新1年生に「ISSの取り組み」について6年生が説明	★事前指導を受けて PTA年度替わりの総会でISSを位置づけ	市ISS推進委員会にて本審査に向けて打ち合わせ
5月	児童会より「ISS児童会目標」についてのアピール けがの増加に伴い、保健部として新しい取り組みを模索	PTAによる登校見守りなど、ISSの取り組み位置づく	
6月	子どもの安全を守る集い・集団下校訓練 全校ISS児童集会 保健部ビジョントレーニング【眼球運動】 心の安心安全をめざす、人権学習の取り組み「ぬのしょう、タウン・ワークス」「こころワークス」 中央階段の掲示リニューアル	子どもの安全を守る集い・集団下校訓練 不審者対応避難訓練	三中校区教職員　救急救命講習 三中校区ISS子ども会議
7月		学校評議員会	市内人権啓発研修会「いじめをなくす集い」に、本校全教職員が参加
今後	けがを減らす取り組みと いじめをなくす仲間づくりの取り組み	地域PTAと協働した「安心・安全な三中校区づくり」への取り組み	台湾のISS視察団受け入れ

※それぞれの取り組みの内容については、この後に詳しく紹介します。

第３章　こころとからだの「けが」をめぐる本校の状況

１　校内のけが

（１）軽微なものを含むけがの発生状況

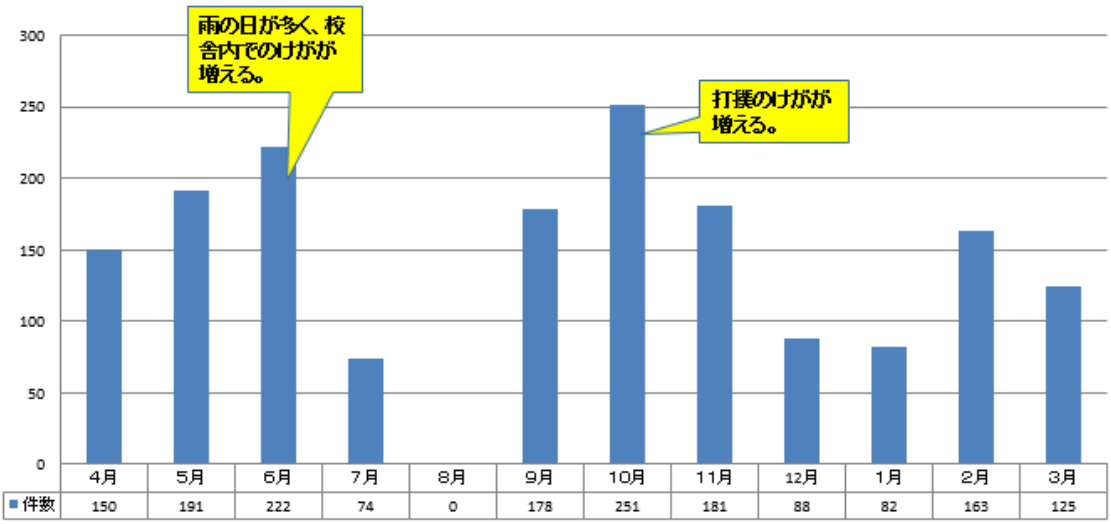
【図表３　保健室来室者数（2016 年　保健室データ「えがお」より）】

本校の「けがの発生件数」は、市内のほかの小学校に比べ、多い状況にあります。

ｐ１３【図表９－①　医療機関受診を要するけがの全児童数に対する割合（「松原の子どもたち（松原市教育委員会作成）」より）参照】

前述のように、集団で遊ぶ取り組みを重視しており、休み時間は殆どの児童が運動場で遊んでいることもあり、遊びによる偶発的なけがが日常的に多くなっています。

【図表４　月ごとの保健室来室者数（2015 年　保健室データ「えがお」より）】

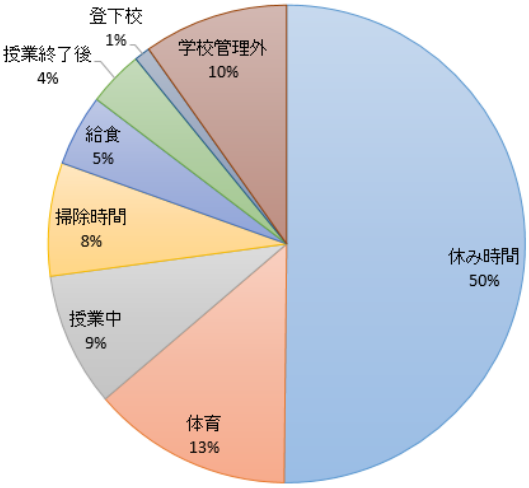


年間で見てみると、６月と１０月にけがが多くなっています。

６月は雨の日が多いため、運動場で遊ぶことができません。休み時間も校舎内で過ごすため、子どもどうしが廊下でぶつかったり、すべって転倒したりする、けがが増えていると考えられます。

また、１０月は運動会もあり、体を動かす行事が多い月です。また、学校として遊びを盛り上げるキャンペーンも行います。その中で、ボール遊びなどでの突き指や、走る遊びでのねんざ、出会い頭などの打撲が増加します。

【図表５　けがの発生時間（2015 年　保健室データ「えがお」より）】



学校をあげたあそびの取組みにより、ほとんどの児童は、休み時間、運動場で大勢の友達と遊びます（ドッチボール、おにごっこなど）。

休み時間のけがは、運動場で多く発生しています。

また、あそびの行き帰りに、校舎の出入り口などでぶつかることも多いです。

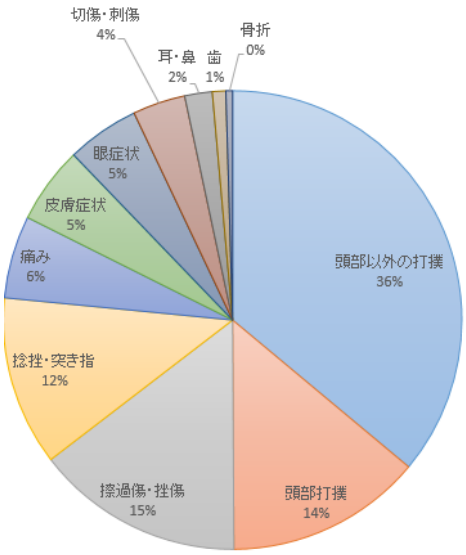
〈休み時間のけがの起きる場所〉

①運動場　55.4%

②校舎の出入口　22.9%

③教室と教室の出入口　21.7%

【図表６　けがの種類（2015 年　保健室データ「えがお」より）】



けがの種類別では、打撲が多く、約半数を占めています。打撲のほとんどは人と人がぶつかることで起きています。

けがをした場所との関連性を見てみると、運動場への出入りの際に、教室やろうかで人と人がぶつかっていることが多いことがわかりました。

【図表７　２０１５年のけがの発生場所×学年（2015 年　保健室データ「えがお」より）】

	運動場	教室	廊下 階段	体育館	下足	歩道橋	学校 管理外	その他
１年	２０１	２２８	７７	２４	９	１	４３	１９
２年	９３	８９	１８	１７	２	０	２２	４
３年	５４	８４	２０	２８	２	２	１７	４
４年	８８	６４	２０	４３	１	１	３０	４
５年	８７	３６	７	１６	１	７	２１	２
６年	３９	２６	７	７	１	３	１８	４

受傷場所を学年ごとに見てみると、低学年児童については、教室や廊下、高学年児童は運動場でけがが多く発生していました。最も怪我が多い学年は１年生でした。

学校管理外のけがは、学校下校後地域で遊んでいるときのけがや、土曜体験活動中のけがです。

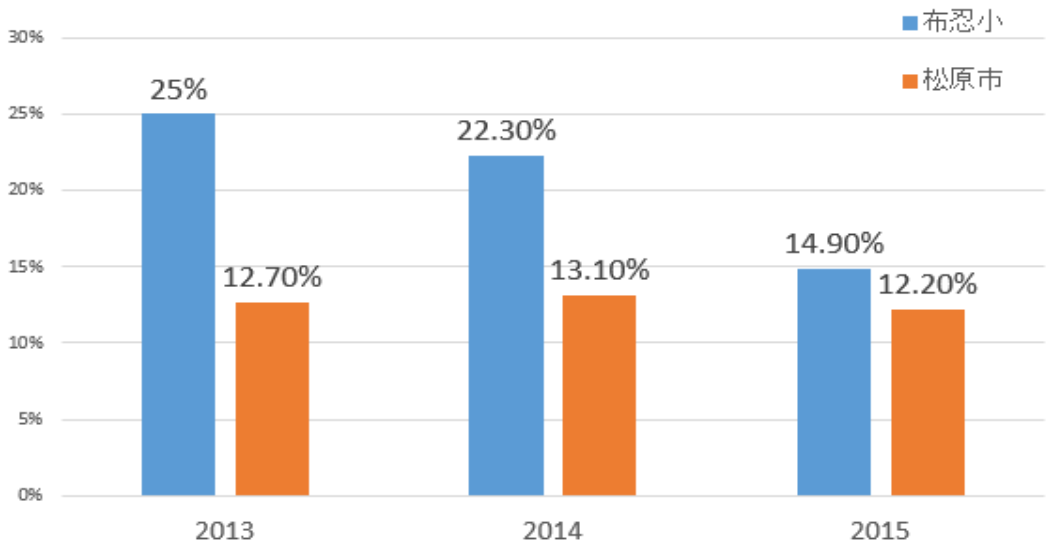
【図表８　ぶつかりの多い場所（2015 年　保健室データ「えがお」より）】

布忍小学校には運動場が２つあります。休み時間に１年生・２年生は第一運動場、３年生以上は第二運動場を使います。そのため、３年生以上が第二グラウンドに出る動きと、１年生２年生が第一グラウンドに出る動きが交差する、１階・２階にある第二運動場へとつながる校舎の出入り口のけがが非常に多くなっています。

（２）医療機関受診を要するけがの発生状況

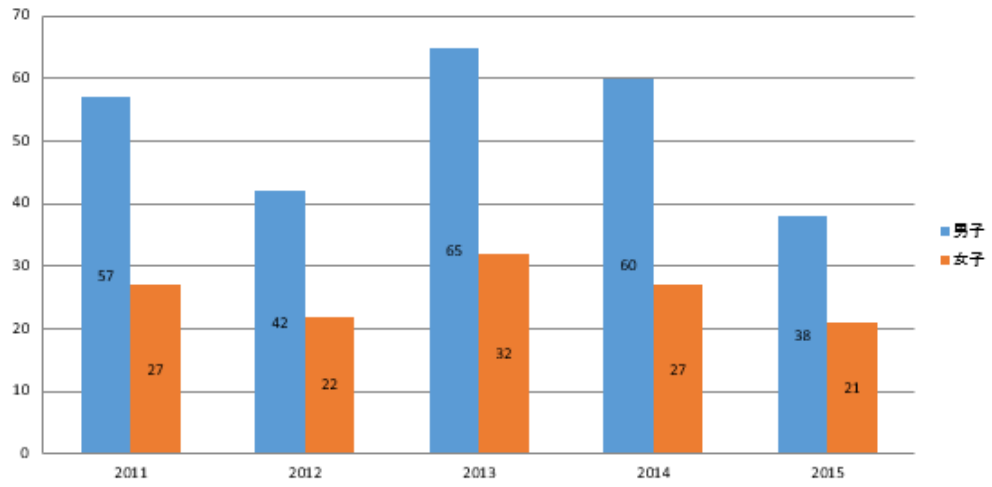
【図表９－①　医療機関受診を要するけがの全児童数に対する割合

（「松原の子どもたち（松原市教育委員会作成）」より）】



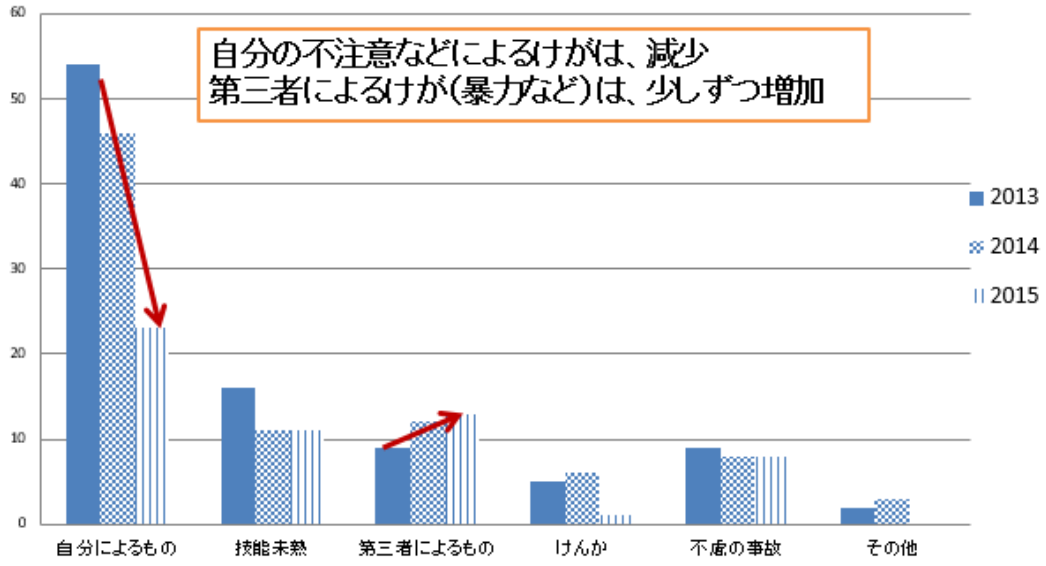
本校での医療機関受診を要するけがの全児童数に対する割合は、松原市平均よりも高くなっています。

【図表９－②　医療機関受診を要するけがの男女比（松原市「学校災害報告書データ」より）】



松原市において、医療機関受診を要するけがの男女比を比べてみると、過去５年間の全ての年において、女子より男子の方がけがが多くなっています。しかし、本校では、男女間で大きな差はありません。

【図表１０　医療機関受診を要するけがの要因（２０１５年　保健室データ「えがお」より）】



医療機関受診を要するけがの原因を経年比較してみると自分の不注意などによるけがの数は年々減っており、ISS の取組みを始めた２０１５年度は半減しています。しかし、ほかの児童からの暴力などによるけがは、少しですが増えています。

（３）心のけがの発生状況

文部科学省が定めた「いじめ」の定義とは、「当該児童生徒が、一定の人間関係のあるものから、心理的、物理的攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの。」です。

本校では、かつてより、児童の教育活動の根幹に集団づくりを位置づけています。遊びや、班、話し合い活動を通じて、子どもどうしがお互いに密接に関わりあっています。

その中で、子どもどうしがもめることもあります。時には大きなトラブルに発展することもあります。わたしたちは、そのトラブルの中で、子どもたちの気持ちを引き出し、出し合わせ、丁寧につないでいく営みを特に大切にしています。しかし、子どもたちの中に力関係が生まれたり、子どもたちが出すべき「気持ち」をうまく出せない状況になったりしたとき、そのトラブルが、学校として「いじめ」と認知せざるを得ない事象になるときもあります。

以下の図表１１は、この三カ年の本校としての「いじめ」の認知件数です。「いじめ」が起こったときにも、まずは被害の児童の気持ちを丁寧に聞き取り、その子の気持ちを大切にしながら指導を進めていきます。もちろん加害の児童の指導の中でも、行為に対しては毅然と指導した上で、その児童が抱えている内面にまで切り込んでいけるよう、組織的に指導を行います。

心のけがに対しての取り組みは　２７ｐ【取組み 4】にまとめています。ご覧ください。

【図表１１　いじめの認知件数（文部科学省「いじめの状況調査」より）】

	２０１４年	２０１５年	２０１６年
いじめと認知した件数	３件	４件	４件
そのうち解消した件数	３件	４件	４件

いじめと認知したものについては、すべて、年度内に解消しています。

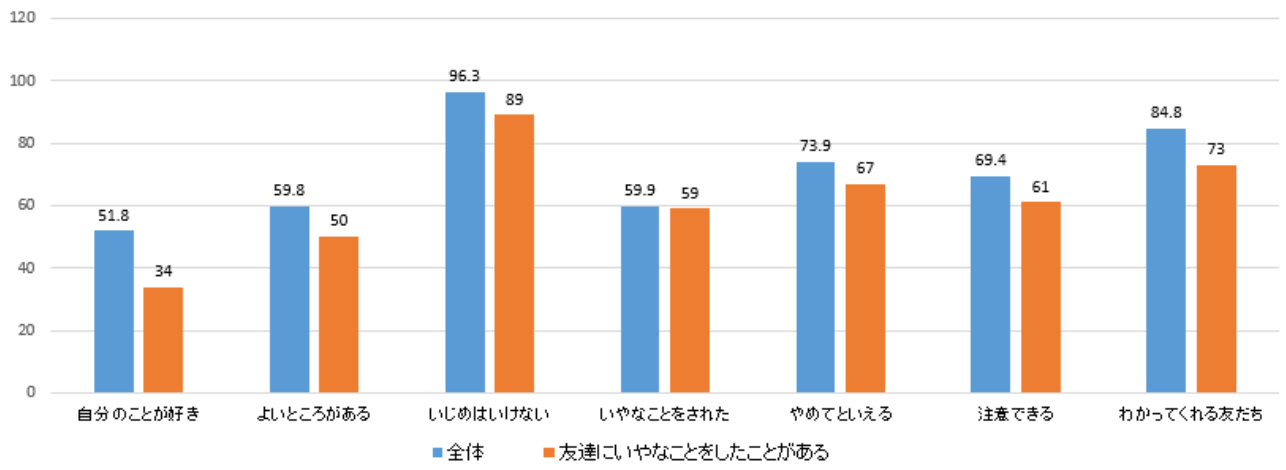
【図表１２　いじめにつながる実態（学校教育自己診断 全校児童アンケートより）】

	2015	2014	2013
自分のことが好きだ	51.8	50.8	49.5
自分にはよいところがある	59.8	57.9	57.2
いじめは、どんな理由があってもいけない	96.3	94.2	94.4
友達に(暴力や悪口など)いやなことをされたことがある	59.9	60.5	53.7
友達に(暴力や悪口など)いやなことをしたことがある	42.1	46.1	46.5
友達にいやなことをされたときしている子にやめてと言える	73.9	73.9	70.9
友達が暴力や悪口などいやなことをされているとき、している子に注意できる	69.4	68.7	69.8
自分の気持ちをわかってくれる友だちがいる	84.8	88.4	89.8

「学校教育自己診断 全校児童アンケート」集計結果の分析を見ると、「友達に暴力や悪口など、いやなことをしたことがある」児童が昨年度で４２．１%いました。この中には、【図表１０】の「けがをさせてしまう第三者の児童」も含まれています。また、「友達に暴力や悪口などいやなことをされたことがある」児童は約６０%と、それより多い結果となっています。

【図表１３　友達にいやなことをしてしまう児童について

（２０１５年度　学校教育自己診断　全校児童アンケートより）】　（ｎ＝８３　単位　%）



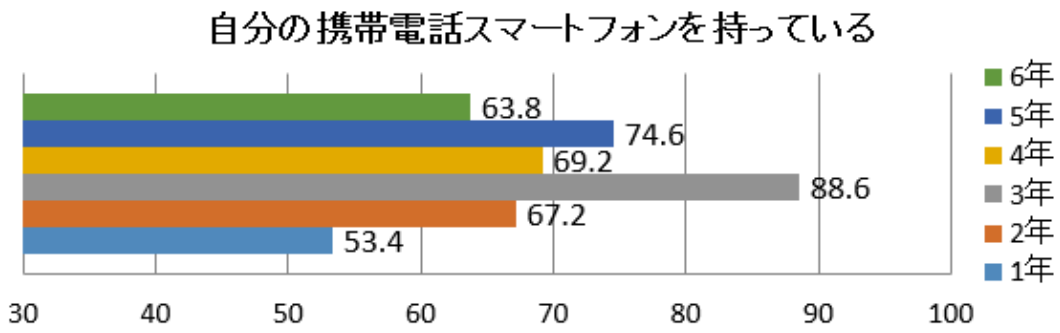
「友達にいやなことをしてしまう児童」は、「自分のことが好き」「自分にはよいところがある」などの自己肯定感に関する問いに対し、肯定的な回答をした児童の割合が低いことが分かりました。また、「自分のことをわかってくれる友達がいる」という問いに対しても、肯定的な回答をした児童の割合は低くなっています。

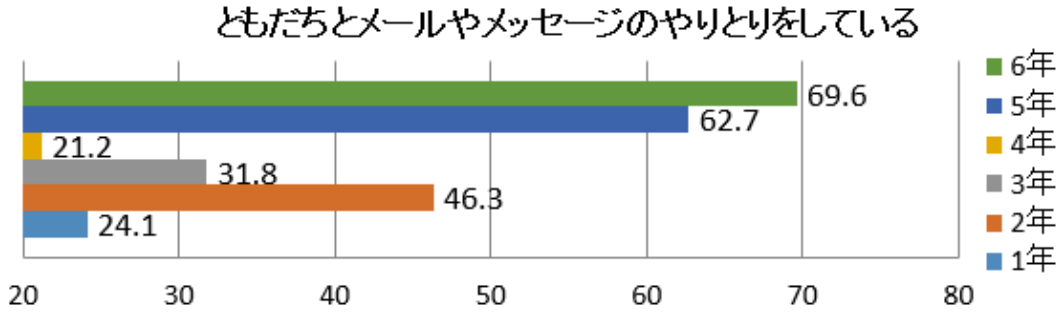
【図表１４　自己肯定感について 他との比較　（２０１５年度　文部科学省による全国学力・学習状況調査より）】

	国	府	A小	布忍小
将来の夢や目標を持っていますか	86.5%	84.5%	85.6%	73.2%
自分には、よいところがあると思う	76.4%	73.3%	65.1%	54.9%

「自分にはよいところがある」という質問に肯定的な回答をした本校児童の割合は、全国、大阪府と比べて約２０ポイント低く、松原市の小学校と比べても低い結果でした。

【図表１５　学年別のスマートフォン等の所有・使用状況（学校教育自己診断　全校児童アンケートより）】　（ｎ＝３７２　単位　%）





上のグラフは、自分専用の携帯電話スマートフォンを持っている児童と、家族と一緒に使う携帯電話スマートフォンを持っている児童をあわせた割合のグラフです。全国平均と比較しても群を抜いています。

4 年 69.2%（全国 27%）　5 年 74.6%（全国 31.2%）　6 年 63.8%（全国 31.6%）（ベネッセ調べ）

１年生の時点で半数以上の児童が自分の携帯電話かスマートフォンを所持しており、この数値は今後さらに増えることが予想されます。また、高学年では、６割を超える児童がメール等によるメッセージのやり取りを行っています。

【図表１６　スマートフォンの使用状況と課題（学校教育自己診断　全校児童アンケートより）】

	2015	2014	2013
自分の携帯電話やスマートフォンを持っている	68.7	51.1	43
携帯電話やスマートフォンの使い方についておうちの人と約束したことを守っている	66.8	97.9	91.6
友達とメールやメッセージのやりとりをしている	45.3	＊	＊
携帯電話やスマートフォンでいやな思いをしたことがある	21.3	＊	＊
	2015	2014	2013
携帯電話やスマートフォンなどの使い方やルールについて家庭で子どもと話をしている	81.4	＊	＊
携帯電話やスマートフォンなどに関係して、子どもがトラブルに巻き込まれたことがある	9.5	＊	＊

昨年度の学校教育自己診断の結果、「携帯電話やスマートフォンでいやな思いをしたことがある」児童は２１．３％（７７人）、「携帯電話やスマートフォンなどに関係して、トラブルに巻き込まれたことがある」児童は９．５％（３７人）いました。その中で、学校での指導に至った案件は２０件以上ありました。その内容は、「友達の写真を無断でネット上にのせる」「友達の悪口を SNS に書き込む」などでした。

第４章　けがの発生状況に基づく重点課題の設定

保健室でとりまとめているデータや、学校教育自己診断アンケートなどから、課題を導き出し、以下のように整理しました。

【図表１７　重点課題の整理】

身体的側面	学内	校舎内	課題１　休み時間に教室の出入り口でのケガが多い〔図表５、８〕 課題２　１年生のケガが多い〔図表７〕 課題３　第三者（周りの児童）による受診を要するケガの増加〔図表１０〕
		校舎外	課題４　休み時間に運動場でのケガが多い〔図表５、６、７、８〕
	学外	通学路	課題５　通学路の交通量が多い〔本申請書５ｐ〕
心的側面			課題６　ネットトラブルの増加〔図表１５、１６〕 課題７　いじめやいじめにつながる行為がある〔図表１１、１２、１３、１４〕

そして、これらの課題に向き合った取り組みを、８つの指標にそって、以下第５章で説明します。

※ここでいう「課題３　第三者による受信を要するケガの増加」の第三者とは、周りの児童をさす。

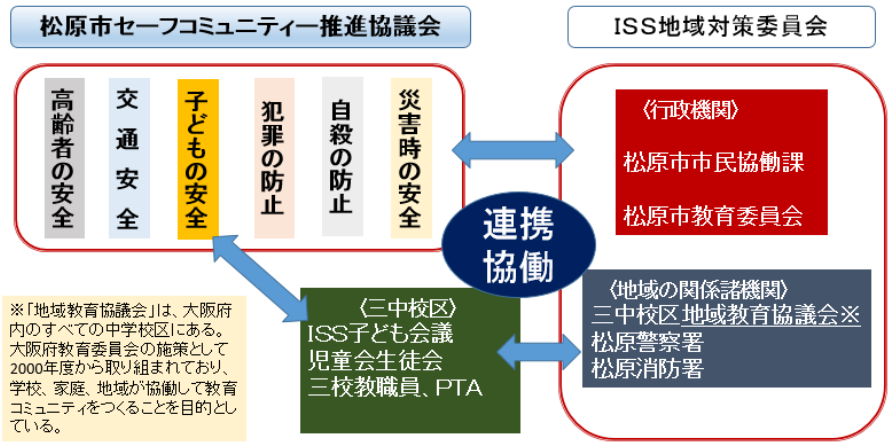
第５章　８つの指標に基づいた取り組み

これらの問題点を解決するため、指標１から８に沿って取り組みをすすめました。

指標１：協働を基盤に安全向上に取り組む運営基盤が整備されている

１　インターナショナルセーフスクール協働体制

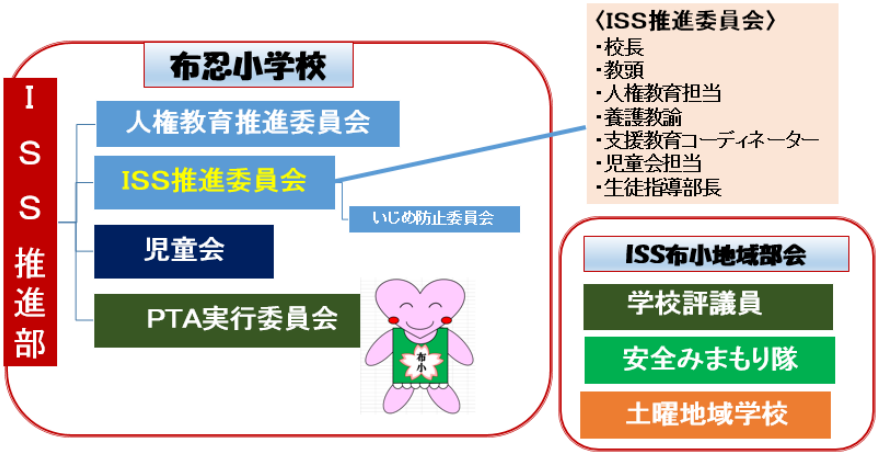
本校では、松原市のセーフコミュニティー推進協議会、松原市の行政機関と地域関係団体がともに作る ISS 地域対策委員会と連携・協働し取組みを進めています。



２　校内の運営体制

本校 ISS 推進部は、ISS 推進委員会を中心とし、児童会や PTA と共に取組みを進めています。また ISS 布小地域部会には、学校評議員や安全見守り隊、土曜地域学校のスタッフなどが位置付いています。

地域の動きについては後でも述べます。



３　PTA、地域、校内（児童会）の運営体制

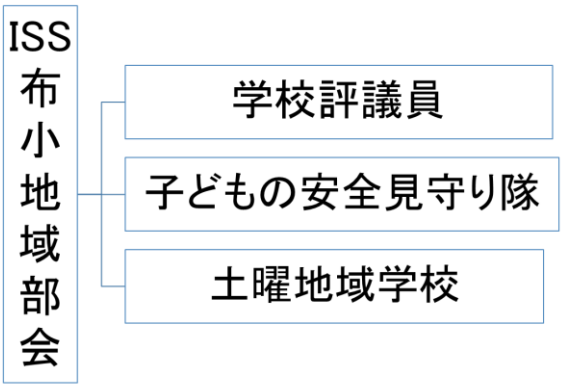
本校の PTA は、実行委員会形式で運営されており、「できるひとが、できるときに、無理なく、楽しく。」が合い言葉です。本部役員のもと、子どもたちの安心安全を守る PTA・ISS 委員会をはじめ、６つの委員会で取り組んでいます。ISS の取組みをスタートさせてから、「子どもたちの安心安全を守る」学校の応援団として、PTA 活動を活性化させてきました。特に、朝や放課後の登下校の見守り活動は、全ての PTA 会員に呼びかけてすすめています。

校内で ISS の取り組みの中心を担うのは子どもたちの自治運営組織、児童会です。本校児童会は、５．６年から選出される児童会役員が中心となり、ISS 活動の要となる保健部や、放送・給食部などの部会で成り立っており、すべての部会で ISS の活動に取り組んでいます。昨年度発足し、三中生徒会・中央小児童会・本校児童会の役員からなる「三中校区 ISS 子ども会議」は、今では、本校の ISS 活動の要です。

また、本校には子どもたちのために、一生懸命動いてくれる地域の方々がいるのも大きな特徴の一つです。地域には多くのお年寄りが住んでおり、その方々が集うたくさんの施設があります。その施設の方々が積極的に学校に関わりを続けてくれています。近年では、「子どもの安全見守り隊」を結成し、朝と放課後の児童の登下校の見守りを行っています。

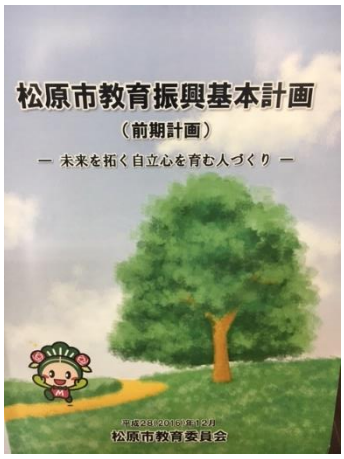
また地域の方々は、毎週土曜日に土曜地域学校と題して、スポーツ活動や料理教室やお花教室など、子どもたちの体験活動の講師をしてくれています。高齢者の方だけでなく、地域作業所の方、お店など事業所の方、本当に子どもたちのために、すぐに動いてくれる周りの大人たちに支えられています。

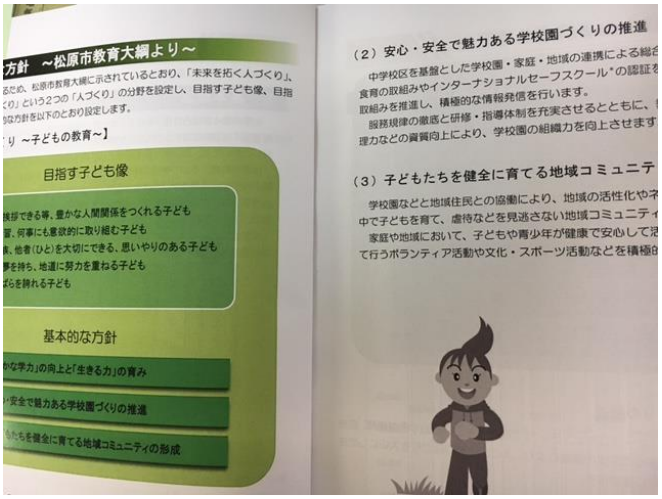
〈地域〉



指標２：取り組みの方針は自治体や教育委員会の方向性と一致している

１　市の取り組みをふまえた本校の方針

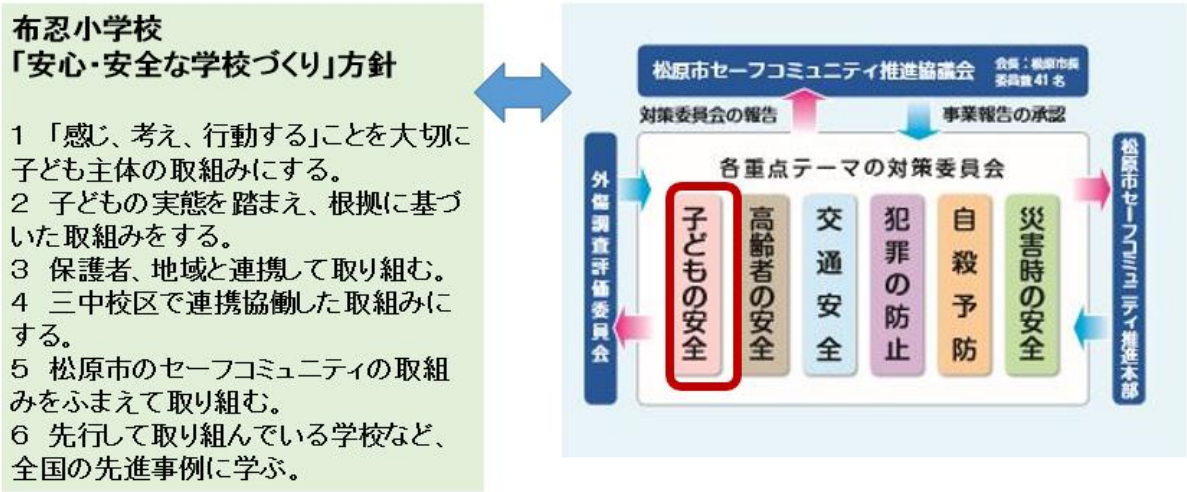




松原市の教育振興基本計画、松原市教育大綱にも、「安心・安全で魅力ある学校園づくりの推進が以下のように記されています。

「中学校区を基盤とした学校園・家庭・地域の連携による総合的な教育活動と給食を活用した食育の取り組みやインターナショナルセーフスクールの認証をめざすなど、安心・安全・健康の取り組みを推進し、背曲的な情報発信を行います。」

その理念のもと、本校は、松原市のセーフコミュニティーの取り組みや、その方向性をふまえながら、全国の先進事例に学び、取り組みを進めています。



２　児童会の取り組み

【取り組み１　セーフコミュニティ関連行事への参加】

松原市のセーフコミュニティ関連行事に出席し、ISS の取り組みを報告しています。

市長や関係団体からも、「子どもたちが、自分自身で考えて動いているのが素晴らしいね。」と評価をいただいています。

セーフコミュニティー関連行事への参加

松原市子ども議会への参加

【取り組み２　松原市子ども議会への参加】

児童会の代表児童が、松原市子ども議会で議論し、安心・安全なまち作りに向けて提言しています。昨年度の子ども議会では、本校児童会代表が、安心・安全な公園について、松原市長に要望しました。その結果、「安心・安全な公園作りのために、ゴミを持ち帰ろう」と言う内容のポスターを本校児童会が作成することになり、市内の大きな児童公園に本校児童が書いたポスターがたくさん掲示される運びにもなりました。

指標３：すべての性別・年齢・状況をカバーする長期的かつ継続的なプログラム

【図表１８　指標に基づく取り組み一覧】

上記の図表１８には、出ていませんが、従来から月１回、教職員が校内の安全を点検し、「安心・安全ではないところ」をチェックし、松原市教育委員会と連絡・調整し、改善を重ねています。

1　全児童による取り組み

【取り組み３　ISS 児童集会】　　**NEW（ISS に取り組みはじめてからの新しい取り組み）**

ISS 児童集会は、児童が主体となって、安心安全な学校づくりに向けて行う全校集会の総称です。

取り組みをスタートさせた当初、なかなか ISS の意味が児童に伝わっていきませんでした。それは、教職員全体で ISS の取り組みのねらいを理解し、進めていないことが原因でした。教職員一人ひとりがその意味を理解し、学校全体で取り組んで行きはじめると、まず動いたのは児童会でした。

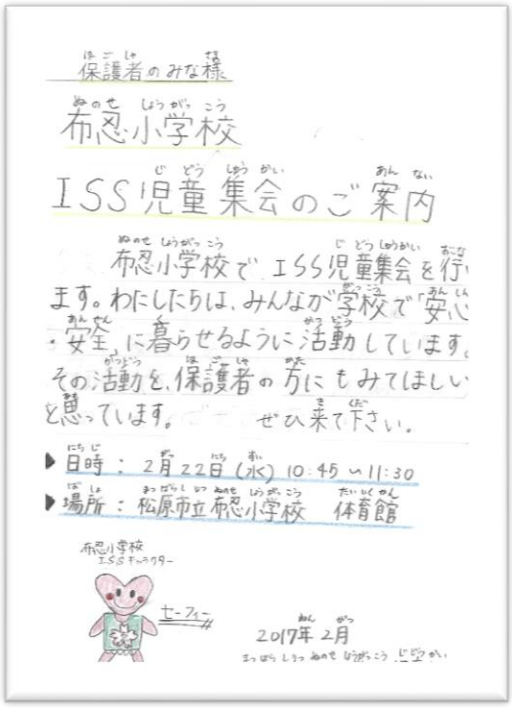
「楽しい布忍小学校を作りたい。」そんな思いは、これまでも持っていました。ISS は子どもたち一人一人が持っているそんな願いを、「いじめのない、誰もがほっとできる、安心安全な布忍小学校」という目標にのせて、学校全体で取り組んでいける大きなチャンスとなりました。

まずは、普段から頑張っている、遊びや友達に優しく声をかける取り組みが、「いじめのない安心安全な学校作り」に、どのような意味を持っているか話し合いました。すると、子どもたちは、「学年で取り組んでいることはわかるし知っている。でも違う学年が、頑張っていることはあまり知らない。」ということがわかってきました。そこで、児童会主催で「安心安全な布忍小学校づくり」で頑張っていることを、交流したり、話し合ったりする、全校集会を立ち上げることになりました。それが ISS 児童集会のスタートです。

現在 ISS 児童朝会は、毎週木曜日の朝に行っています。児童が主体となって、よりよい学校づくりに向けて、児童会の各部会や、各学年から、提案や報告を行っています。

また、学期に一度、今の学校の「安心・安全の課題」を全校で考えていく趣旨の「IIS 児童集会」も定着してきました。学期に一度の ISS 児童集会では、各学年の児童が、学校の課題や「ＩＳＳとつないだいじめのない学校づくり」について取り組んだこと、今の「安心できる仲間づくり」に関する課題や自分の思いなどを語り合っています。保護者や地域の方々も招待し、感想やアドバイスを話してもらっています。児童・保護者・地域で「安心安全な学校づくりと自分の居場所」を考える大切な場になっています。特に、高学年児童の姿から、低学年児童が学ぶ、貴重な時間になってきています。

【6 年生児童の報告より】


保護者のみなさま

布忍小学校

ISS児童集会のご案内

布忍小学校でISS児童集会を行います。わたしたちは、みんなが学校で「安心・安全」に暮らせるように活動しています。その活動を、保護者の方にもみてほしいと思っています。ぜひ来て下さい。

▶日時：2月22日(水) 10:45～11:30

▶場所：松原市立布忍小学校　体育館

布忍小学校 ISSキャラクター

ピーフィー

2017年2月

・僕は、3 学期スタートの語る会で、「本音の言い合える友だちをつくって、自分たちでもめごとを解決していきたい。」と、伝えました。友だちと気持ちを言い合って仲良くなりたいと思っていました。でも、3 学期が始まり、帰ってから遊ぶ子があまりいなくて、さみしいという本当の気持ちを言えていませんでした。そんな中、僕は、友だちと仲良くなりたくて、かげぐちに乗っていました。「乗らんかったら入られへん、仲良くなりたいと思っていた友だちと話されへんようになる」と、思っていました。でも、その気持ちを友だちに相談したとき、「気持ちはわかるけど、かげぐちは間違ってる。」と、言ってくれました。僕は、本当に悪いことをしてたなと思い、学級会で自分のことを言いました。今の自分にできることは、「自分がかげ口をやめていくこと」、そして、「本当の気持ちを伝えていくこと」だと思います。

毎年６月には、児童の安全を守る月間のスタートに「ISS 安全集会（子どもの安全を守る集い）」集団下校訓練を行います。本校児童 400 人、教職員 30 人、それに加え約５０人ほどの地域・保護者の方が来てくださいます。毎年６月には「集団下校」には、地域の方々や保護者もたくさん参加して児童を見守っています。

ISS 安全集会･集団下校訓練

２　心のけがに対応する独自のカリキュラムによる学習

【取り組み４　ぬのしょう、タウン・ワークス／こころワークス】

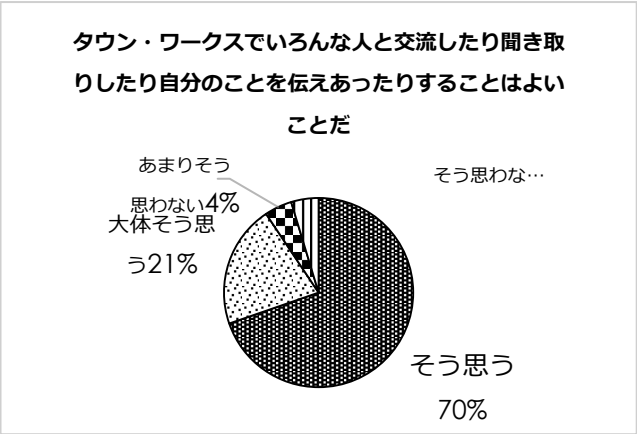
改善・充実（ISS に取り組みはじめて改善した・充実させた取り組み）

本校には、図１２．１４でも示したとおり、自尊感情が低い児童が多く在籍しています。そんな子どもたちが、自分自身のことを大切にし、自信を持って生きていけるよう、人権学習が取り組まれています。それらの人権学習は、たくさんの地域の大人の力を借りて、総合的な学習の時間、道徳の時間に行われています。

総合的な学習の時間には、生き方・共生の学習「ぬのしょう、タウン・ワークス」に取り組んでいます。「①人権、命を大切にする児童の育成　　②自尊感情、行動力、コミュニケーション能力の向上」をねらいに学習を進めています。児童が布忍のまちに出かけ、働く地域の人や保護者、先輩などたくさんの人との出会いを通して、学びを深めています。

厳しい生活背景からなかなか素直に自分自身を認められない児童が、この学習を通して、自分や家族、地域、くらしに誇りをもてるよう、取り組みを進めています。

また、「タウン・ワークス」で学びを保護者に伝える「学習発表会」も開催し、保護者へのアカウンタビリティを果たす重要な場になっています。



【2016 年度 3 学期　学校教育自己診断児童アンケートより】

道徳の時間には、「こころ・ワークス」と題して、「いじめのない仲間づくり」や「人として大切な価値観（「人権の知的理解」）を学ぶ学習プログラムを展開しています。「タウン・ワークス」での学びをふまえ、自分の行動や言動を深く考える機会となっています。

また、「こころ・ワークス」の学習プログラムは、大阪弁護士会の弁護士とコラボレーションしながらつくってきました。弁護士に「いじめ予防」の模擬授業をしていただいたり、「こころ・ワークス」の授業でゲストとして児童にメッセージをもらったり、授業研究会で指導助言いただいたりしながら、学習プログラムをつくってきました。

ぬのしょう、タウン・ワークス

地域のお年寄りや、障害者、たくさんの大人が、布忍小学校の人権学習を支えてくれています

こころワークス

弁護士の先生に授業に入ってもらって、決まりを守ることの意味や、たくさんの人の中でくらしていくルールを学びます

３　誰もが安心して取り組める授業づくり

【取り組み５　インクルーシブな学校づくり／アクティブ・スクール（AS）】 **改善・充実**

学級経営がうまくいかなくなると、子どもたちの間に力関係が生まれます。そして時には、一緒に学んでいる友達のことを大切にできず、間違った答えを言ったときなど、笑う雰囲気ができることもあります。

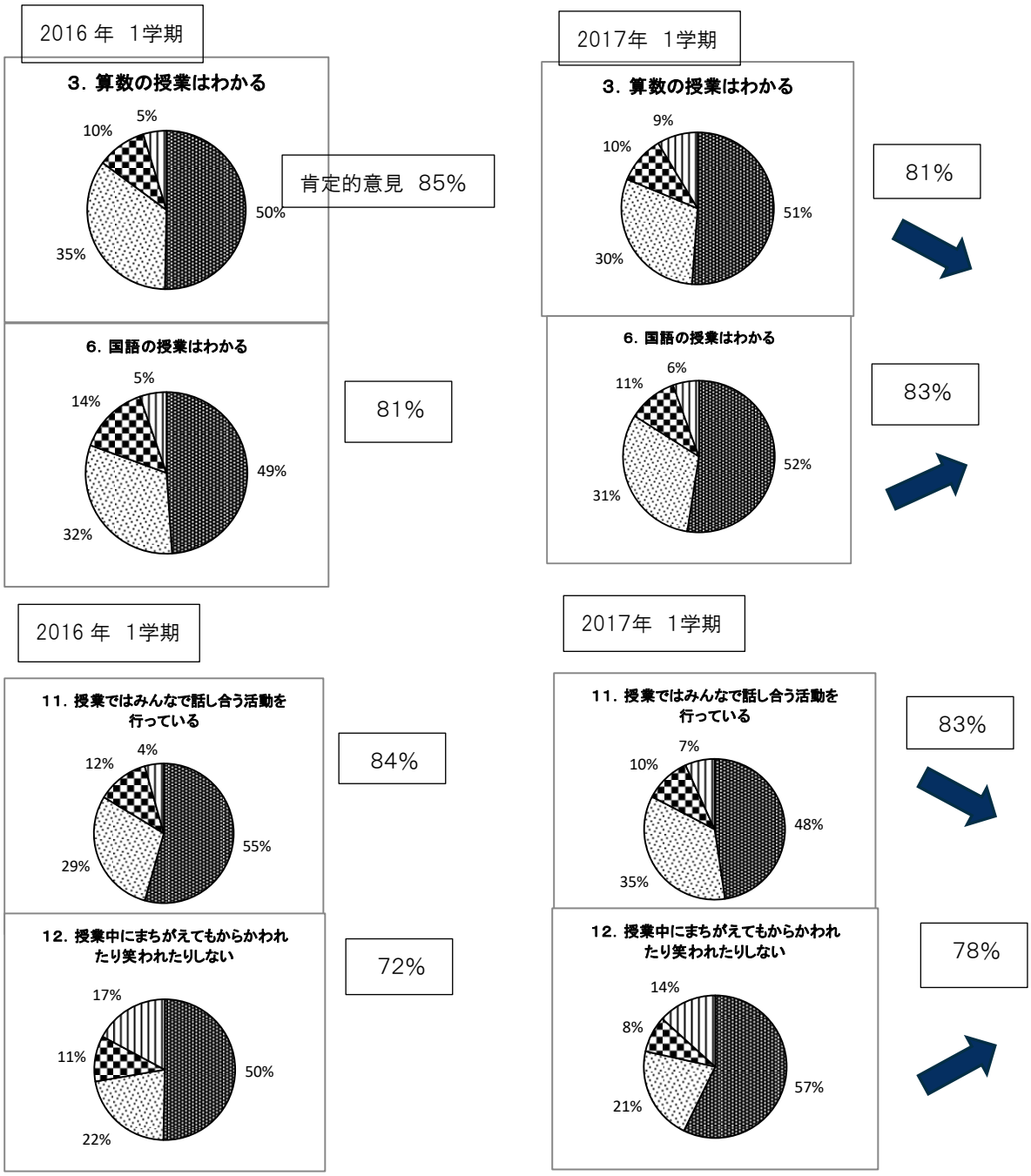
また、家庭環境が厳しい子どもたちは、学力にも大きな課題があることがわかっています。どのような家庭環境の子どもたちにも、わかりやすい授業をつくっていくことが大切です。

本校ではそのような課題に対応するため、「だれもが安心して参加できる授業」をめざして、「インクルーシブな学校づくり」と「アクティブ・スクール」の取り組みを進めています。教職員の校内組織である学力向上推進部・国語部・算数部を中心として、「わかる授業づくり」「安心して学べる学習集団づくり」のために、学習環境の整備だけでなく、わかりやすい板書の工夫や、発問の工夫、教材や学習の手立ての工夫、研究授業などを行っています。

どの児童にも見やすく、わかりやすい板書の工夫

教職員みんなで授業を見合い、よりわかりやすい授業になるよう研究をしています

【図表１９　学習に関する実態　（学校教育自己診断　全校児童アンケートより】



2016 年の学校教育自己診断アンケート結果と 2017 年のアンケート結果を比べると、「算数の授業はわかる」「授業ではみんなで話し合う活動を行っている」については、肯定的意見の割合が少し減っています。一方、「国語の授業はわかる」「授業中にまちがえてもからかわれたり笑われたりしない」については、割合が増えています。

この原因はどこにあるのかを、現在分析しています。授業がわかりやすいと感じているのはなぜか、またわかりにくいと感じているのはなぜか。原因を予想し、指導に返しています。

４　児童による自主的な遊びの取り組み－安心安全な遊びルールづくり

【取り組み６　児童による主体的な遊びの取組み】改善・充実

子どもたちが、関係作りをする一つの機会作りを目的として、学年や学級、異年齢によるピアサポートなど、様々な形態での外遊びを進めています。児童会や遊び委員の児童たちが、仲間はずれをつくらないこと、楽しく遊んで友達を増やすことを目的に企画・運営をしています。時には遊びのルールについて、児童会の子どもたちが中心となって自主的に遊びの後話し合いをし、ルールの確認などをしています。

遊び大会

5　ISS キャラクターによる意識向上

【取り組み７　ISS キャラクター「セーフィー」による意識向上】 **NEW**

子どもたちの自主的な動きが加速するにつれ、自分たちでキャラクターを作ってもっともっと、取り組みを広めたいという声が聞かれるようになりました。そこで、ISS の取り組みをさらに加速させ、意識を高めていくシンボルとして、全校児童からデザインを募集し、たくさん応募の中から、投票により３年生の児童が考えたキャラクターが決定しました。名前は「セーフィー」です。「セーフィー」は、校内のいろんな所でみんなの安心安全を見守っています。保護者が、「セーフィー」の編みぐるみや判子なども作ってくれました。

指標４：ハイリスクのグループや環境を対象とした取り組み_

ハイリスクのグルーとして本校が考えるのは、新しい環境に適応するまで時間がかかる新入生と、リスクを負う側として支援学級に在籍する児童、そして図表１２・図表１３で説明した「人の嫌がることをしてしまう児童」です。それらハイリスクを負うグループへの取り組みをまとめています。

また、ハイリスクの環境は、図表１５・図表１６で説明したネットトラブルの増加と、第１章４項で説明した交通量の多い通学路であるとし、取り組みを整理しました。

ハイリスクの状況に関しては、日本は災害が多いことをふまえ、地震などの災害を対象としています。

【図表１９　ハイリスクに対する取組み一覧】

ハイリスク		根拠	取組み
集団	新入生	1年生はケガが多い	11
	支援学級児童	日常や災害時など安全な生活を過ごすために、支援を必要とする場合が多い	３．４．５
	人のいやがることをしてしまう児童	時には暴力や暴言で周りにいる友達などに危害を与えてしまうときがある 図表12、13	４．５
環境	ネットトラブルの増加	ネットトラブルの件数が増えている　図表15、16	９．10
	通学路の交通量	通学路は非常に交通量が多い　本申請書　５ｐ	３、14
状況	自然災害	日本は災害が多い。特に、地震は頻発している。南海トラフ地震による被害が想定されている	8

【取り組み８　防災避難訓練】　改善・充実

いつ災害が発生しても、地域の大人と児童が自分の身を守りつつ、安全に避難ができる体制を作れるよう、学校と地域が連携して「防災避難訓練」を行っています。市の危機管理課の職員による指導のもと、避難所体験をしたり、地震が発生したときに身を守る訓練をしたりしています。児童会の児童がスタッフを担い、高学年の児童が低学年の児童をサポートしながら訓練をしています。このような防災訓練は、年に数回行っています。

【取り組み９スマホルールづくり】【取り組み１０ネットトラブルの現状についての学習会】NEW

年々発生数が増える、スマートフォンやインターネットでのトラブルを未然に防ぐため、ルール作りや啓発活動を行っています。

三中校区 ISS 子ども会議では、各校の現状をもとに話し合い、スマホルールを作成しました。作成したルールは、三中校区のヒューマンタウンフェスティバルでも地域の参加者に広く呼びかけました。

SNS 等のトラブルについては、教職員・保護者との合同で学習講演会を実施しました。

スマホルールづくり

ネットトラブル学習講演会

【取り組み１１　新しい体制への継承プログラム】 **NEW**

前回の事前審査でも指摘のあったとおり、児童の卒業・入学、教職員の異動入れ替わりなどでたくさんの人が入れ替わり、新しい体制へと変化する４月は、取り組みを進めていく上で一つのリスクとなります。中でも大きなリスク対象となるのは、新１年生の入学です。

今年度、昨年の事前指導を受けて、ＩＳＳについてなにも知らずに入学してきた新１年生の児童も、スムーズにＩＳＳの仲間になれるような取り組みを新たにつくってきました。

また、教職員の異動に伴い、新しく布忍小学校に来られた教職員にも、ＩＳＳに無理なく取り組めるような研修を、新たに組み入れてきました。

【対面式で新１年生にＩＳＳの紹介】

【新１年生に遊びを教える６年生】

【4 月初めのＩＳＳ教職員研修】

指標５：入手･活用可能な根拠に基づいた取り組みを実施する

１９ｐ【図表１７】再掲

			課題	取り組み
身体的側面	学内	校舎内	課題１　休み時間に教室の出入り口でのケガが多い〔図表５、８〕 課題２　１年生のケガが多い〔図表７〕 課題３　第三者による受診を要するケガの増加〔図表１０〕	12.13.14 11.15.16.17 12.18
		校舎外	課題４　休み時間に運動場でのケガが多い〔図表５、６、７、８〕	12.13.14
	学外	通学路	課題５　通学路の交通量が多い〔本申請書５ｐ〕	14.19
心的側面			課題６　ネットトラブルの増加〔図表１５、１６〕 課題７　いじめやいじめにつながる行為がある〔図表１１、１２、１３、１４〕	18 18

1　児童が主体となった取り組み

【取り組み１２　児童よる啓発】 **NEW**

校内ケガ調べをしている児童会保健部が、打撲のけが、それも出会い頭の衝突によるけがが多いことに注目し、校内のけがを少しでも減らすために、各教室に「けがを減らそう」という呼びかけを行いました。

その際特に、出会い頭の衝突を減らすため、2017 年 6 月、視野を広げるためのビジョントレーニング（眼球運動）を紹介しました。

ビジョントレーニング【眼球運動】とは？

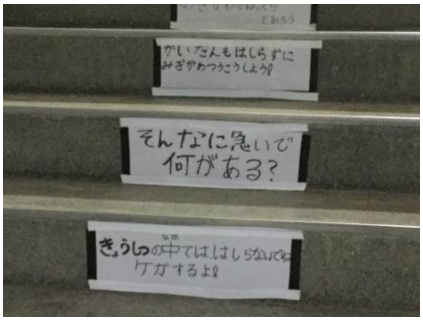
ここでいうビジョントレーニング（眼球運動）とは、目をスムーズに動かす機能訓練のことを指します。目がスムーズに動いていないとさまざまな事故につながる可能性もあります。球技をされている方は、頭や体をぶらして球を見にいってしまうと良い結果は得られません。眼球がスムーズに動くと目だけで追えるので、体のバランスを保ったまま素早い対応ができます。日常的にも目を動かすことで、助かることはたくさんあると思います。　　目の機能食品メーカー「わかさ生活」HP より

ビジョントレーニングは、2017 年度 2 学期より本格的に取り組んでいます。

また、手作りポスターや標語カードを校内に掲示し、校内での「安心・安全」への関心を高めました。

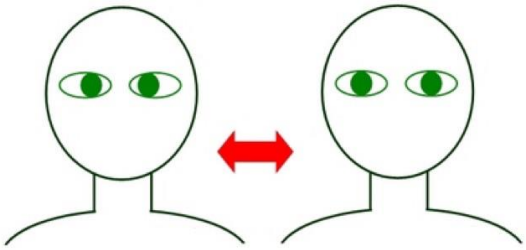
【手作りポスター】

【紙芝居】



【標語カード】

【6 年保健部による眼球運動レクチャー】



【眼球運動の例】

【取り組み１３　校長先生への要望】 NEW

校内のけがの多い場所への対策を児童会が話し合い、校長先生に要望書を提出しました。今年度の要望は、①ぶつかりの多い１階渡り廊下にカーブミラーをつけてほしい②右側通行を意識できるように廊下にテープを貼ってほしい、の２つでした。

【取り組み１４　校内安全マップづくり・校区安全マップづくり】 NEW

校内のケガを少しでも減らすため、土曜地域学校という地域活動で、児童と保護者や地域の方が一緒に、校内安全マップづくりに取り組みました。

さらにそのノウハウを生かして、校区の危険箇所を把握し、校区でのケガを減らすために、校区安全マップづくりに取り組みました。

【取り組み１５　動線の変更】NEW

取組み１３．１４で明らかになった、けがの多い場所への対策として、児童の動線を変更しました。

よくぶつかっていたので、あそびにいくときの道すじ〈動線〉をかえた。

【取り組み１６　カーブミラーの設置】NEW

出会い頭のケガが多い箇所におけるケガを減らすため、取組み１３の児童会からの要望にこたえ、行き来の多い多い丁字路には、カーブミラーを設置し、互いを視認できるようにしました。

【取り組み１７　白線の設置】NEW

また、同じく出会い頭のケガが多い箇所におけるケガを減らすため、取組み１３の児童会からの要望にこたえ、右側通行のための白線や矢印を校内の廊下や階段にひきました。

特に衝突によるけがの多かった１年生の教室前廊下から優先的に白線をひき、右側通行を呼びかけていきました。

【取り組み１８　信じ合えるなかまづくり協働宣言】NEW

いじめを減らすために ISS に取り組んでいる松原第三中学校生徒会、中央小学校児童会、そして布忍小学校児童会が中心となって「信じ合えるなかまづくり協働宣言（いじめをなくす宣言文）」を ISS 子ども会議で作成しました。「自分の命」「仲間の命」「正しい気持ちを信じる心」を大切にして気持ちを伝え合い、いじめのない学校をつくっていくことを、全校児童・保護者・地域の方々の前で宣言しました。

信じ合えるなかまづくり協働宣言

わたしたちはいじめを絶対に許さない。人の心を傷つけ、ボロボロにしてしまういじめは、この世の中に絶対あってはならないことだから。いじめをすることも、させることも、そして知らないふりをすることも、わたしたちは絶対に許さない。学校は誰にとっても楽しくて、安心できるところでなくてはならないから。

みんなの笑顔が輝くために、わたしたちは次の３つのものを大切にしていこう。

一.　１つしかない自分の命

自分の命を大切にできないのなら、なかまの命は大切にできない。困ったときは、１人で悩まず周りの人に言おう。いじめられたときには、思ったことをはっきり言おう。自分の気持ちを伝えることは、自分を大切にすることと同じだから。

二.　大切ななかまの命

わたしたちは１人で生きることはできない。なかまと助け合いながら生きている。そんななかまを大切にしていかなければならない。人を傷つけたり、悲しませたりしてはいけない。人が失敗したときは、それを笑ったりからかったりせず、元気になるようにやさしく話しかけよう。そして、なかまの気持ちを聞こう。なかまの気持ちを考えよう。大切ななかまだから。

三.　自分の中にある正しい気持ちを信じる心

自分の中にある正しい気持ちを信じよう。いじめがあることを知ったときや見たとき、いじめにあったときには、先生や家族、友だちなどのなかまに話そう。苦しんでいるなかまを１人ぼっちにさせてはいけない。１人で言えないときは、なかまと協力しよう。自分の中にある正しい気持ちを信じて、思ったことははっきり言おう。

みんながこの３つを大切にできたなら、いじめはきっとなくなる。

みんながあたりまえに学校生活を笑顔で送れるように、わたしたちはいじめをなくすため、全力でがんばることを、ここに宣言します。

ＩＳＳ三中校区子ども会議（中央小学校児童会・布忍小学校児童会・松原第三中学校生徒会）

２　地域と共につくる取り組み

【取り組み１９　登下校見守り・交通安全指導】　改善・充実

交通量の多い通学路を通っている、布忍小学校の児童の安全を守るため、布忍小学校の校区では、登下校中、たくさんの地域の方や保護者の方が児童の見守りをしてくださっています。児童の交通安全の意識が高まるように声かけもしてくださっています。

登下校見守り

指標６：外傷の発生頻度や原因などを記録するプログラムがある

【図表２１　けがの記録方法一覧】

分類	けがの種類		記録方法	頻度
からだのけが	軽微なものを含むけが	通院を要しないけが	【取り組み20】 保健室利用カードを使って、けがの情報を収集し、統計処理を行う。（えがおデータ） けがをした児童が、けがをした場所にシールをはり、マップをつくる。（児童会）	毎日データー入力し、週ごと、月ごとに分析を行う。 入力とりまとめは養護教諭
		通院を要するけが	学校管理下におけるけがについては、災害医療費請求をするために、市教育委員会に記録を提出し、日本スポーツ振興センターへ申請を行う。	月ごとに集計し、市教育委員会に提出する。 入力とりまとめは養護教諭
心のけが	いじめやいじめにつながる状況とその件数		【取り組み21】 全児童を対象に、学校教育自己診断による児童アンケート調査を行っている。 ※学校教育自己診断は大阪府教育委員会の指導により、学校評価のために学校が実施するもの。 その他、いじめのアンケート調査を行うほか、児童が直接申告できる日記を書かせる。	毎学期ごと（いじめアンケート調査） 年間１回（学校教育自己診断による保護者・児童アンケート） 日記は子どもたちが毎週書く。学級担任が読む。

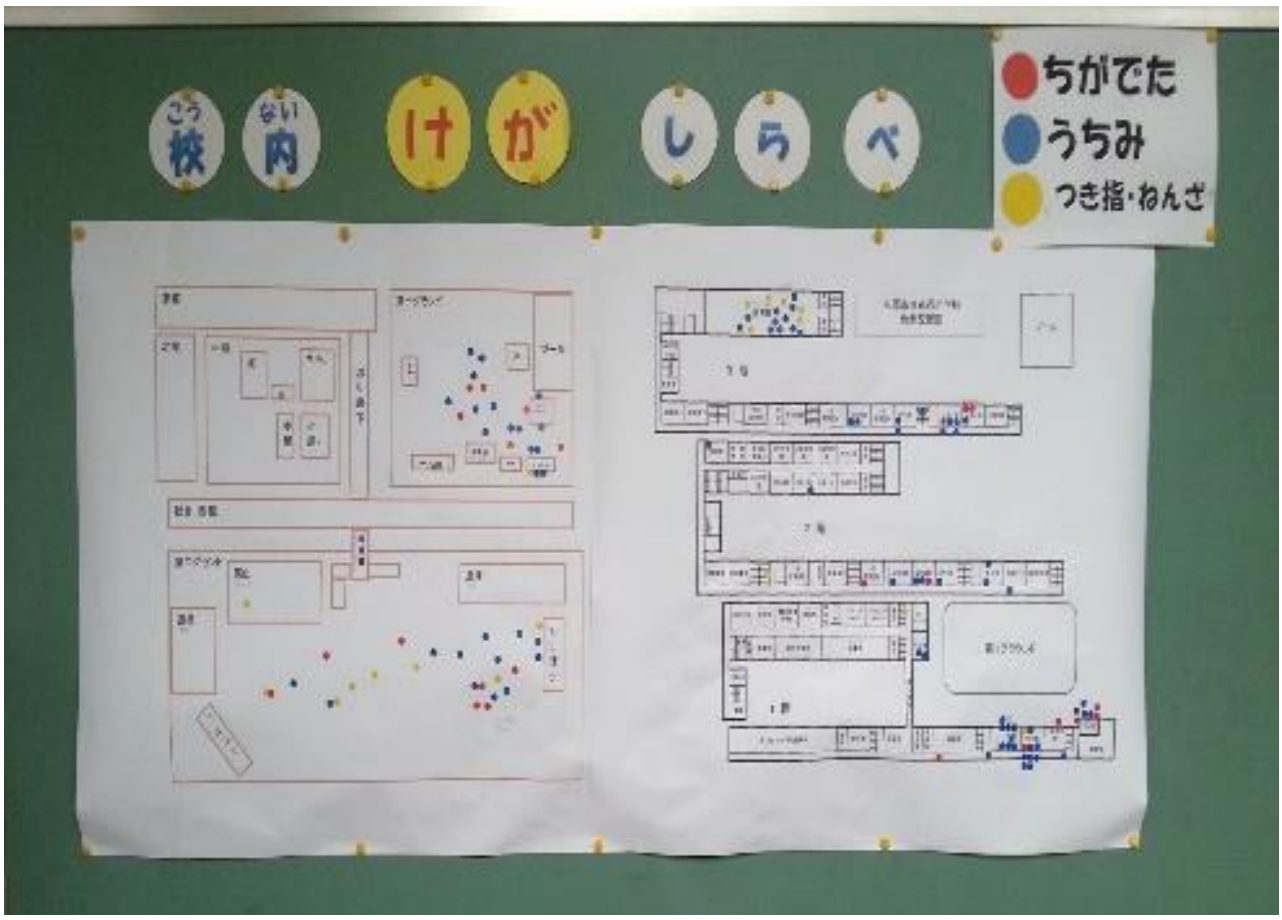
身体のけがについては、保健室利用カードを使って、けがの情報を収集しています。（データの入力・とりまとめは養護教諭）

心のけがについては、毎学期ごとに全児童を対象に、学校教育自己診断による児童アンケート調査を行っています。また、いじめのアンケート調査を行うほか、児童が直接申告できる日記を書く時間を毎週設定し、常に児童の心の状態を把握するようにしています。

【取り組み２０　校内けがマップの作成】 **NEW**

けがをした場所にシールをはったマップを保健部児童が作成し、保健室前に大きく掲示すると共に、ISS 児童集会で全校児童に注意を呼びかけました。

けがをした場所にシールをはったマップを保健部児童が作成し、保健室前に大きく掲示すると共に、ISS 児童集会で全校児童に注意を呼びかけました。



【取り組み２１　校内いじめアンケートの実施】改善・充実

「この学期中にともだちにいやなことをしたことがある」「この学期中にともだちからいやなことをされたことがある」「いじめは何があってもいけないことだと思う」など、子どもたちが友達との間でおきたトラブルの中の、いじめにつながっていく事象を学校でつかむため、毎学期「アンケート」を実施しています。

指標７：学校政策、プログラムおよびそのプロセスが変化したことによる効果を評価する方法がある

【図表２２　取り組みに対する効果測定の指標一覧】

	対策	短･中期的成果の指標	長期的成果の指標
ケガの減少・いじめの根絶	目標：危険予測・回避能力の育成、意識向上 (1) ケガマップの作成 (2) 毎日のケガ調べ (3) 安全マップづくり (4) 防災避難訓練 (5) 児童中心の啓発活動 (6) ISS子ども会議	指標：ケガの発生要因や改善策の理解 ○児童アンケート ・対象：全児童 ・回数：年間1～3回	○校内のケガの発生率 ・保健室データ「えがお」 ○松原市災害報告書データ ○大阪府社会性尺度アンケート ○学校教育自己診断 ○校内総括（学校自己評価）と学校評議員会議（学校外部評価）
	目標：ネットトラブルの減少 (7) スマホルールづくり (8) 講演会の実施	指標：リテラシーの向上 ○児童アンケート ・対象：全児童 ・回数：年間1～3回 ○保護者アンケート ・対象：全保護者 ・回数：年間1～2回	
	目標：安心・安全な集団づくり (8) 独自のカリキュラムによる学習 (9) 児童による自主的なあそびの取組み	指標：信頼しあえる人間関係の構築、自己肯定感の向上 ○いじめ実態調査 ○児童アンケート ・対象：全児童 ・回数：年間1～3回	
通学路の安全	目標：安全意識の向上 (11) 交通安全教室 (12) 安全集会 (14) 安全マップづくり	指標：通学路のヒヤリハットの減少 ○児童アンケート ・対象：4・5・6年 ・回数：年1回	○松原市災害報告書データ ○保護者、地域をまじえた安全集会による評価

それぞれの取組みをした結果、どういう変化があったのかを「短期・中期的成果」と「長期的効果」に分け、それぞれ指標を設け、効果測定をしています。

〈事例１　けがに対する取り組み〉

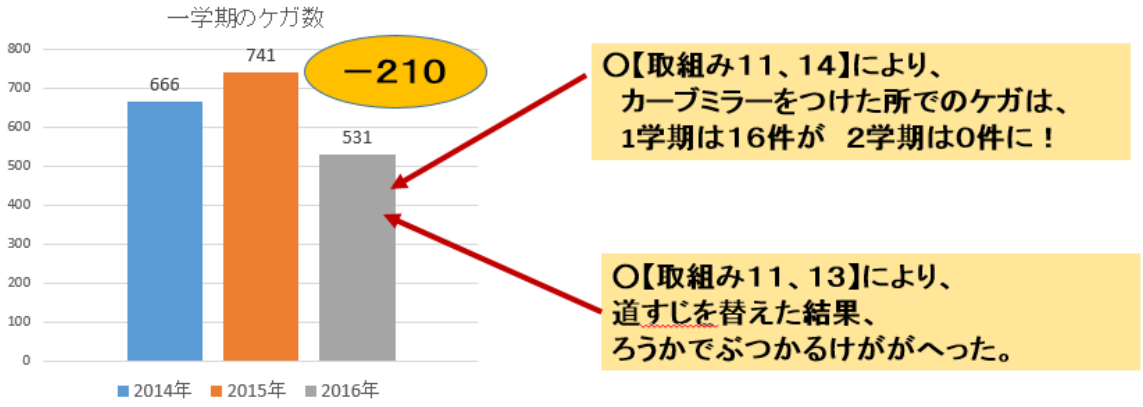
ISS の取り組みをはじめて、校内での身体的なけがによる保健室来室者数は、2015．2016 年度と取り組みを進める中でようやく改善の兆しが見え始めました。2016 年度ではトータルの数が 15000 件を下回り、児童一人当たりに換算すると昨年度は、一人あたり３．６件でした。

P9【図表３　保健室来室者数（2016 年　保健室データ「えがお」より）】再掲

特に 2016 年度の１学期のけが数は、昨年度の１学期より２１０件も減っています。児童会がけが調べを行い、けがの原因を考え、対策を練り、児童会からの要望で、けがが多発する場所にカーブミラーをつけたり動線を変えたりしました。（取り組み 11・取り組み 13・取り組み 14）その場所でのけがの数を調べまし

た。カーブミラーをつけた場所のけがは、２０１６年度１学期は１６件ありましたが、カーブミラー設置後にけがは起きていません。また、ろうかで衝突することによるけがが大きく減りました。

動線を変えたり右側通行を呼びかけたりした効果があったと考えています。



また、本校での医療機関受診を要するけがの全児童数に対する割合も、ISS の取り組みをはじめ、減少しています。しかし、松原市平均よりも高く、今後の課題となっています。

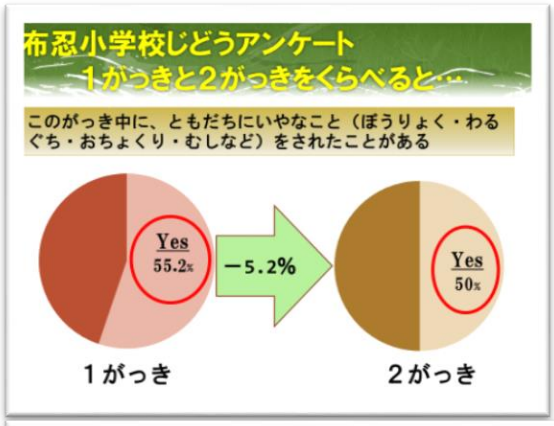
〈事例２　児童会・ISS 子ども会議の取り組み〉

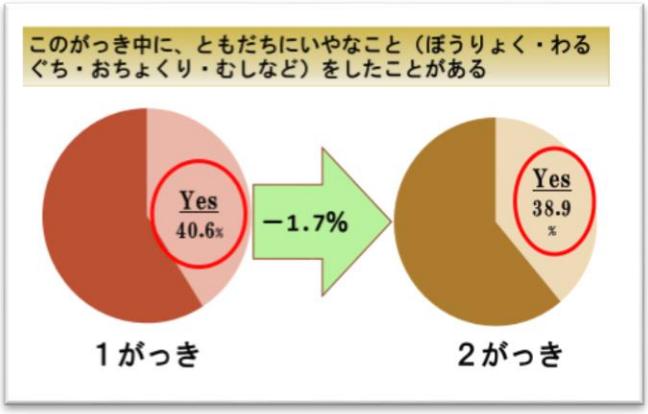
取り組み２でも説明したように、児童会や ISS 子ども会議で話し合ったことを、松原市子ども議会で提案しました。本校の代表児童の「地域の公園で安全に遊びたいが、ごみが多いので減らしたい」「不審者対策のパトロールをしてほしい」という本校代表児童の提案に対し、松原市長から「ごみを無くすポスターを作るので、布忍小学校でデザインしてほしい」「パトロール強化を警察に要望する」という回答がありました。結果、松原警察のパトロール強化により、不審者もいなくなりました。また、本校児童が制作した公園のポスターを松原市が印刷して公園に掲示してくれました。

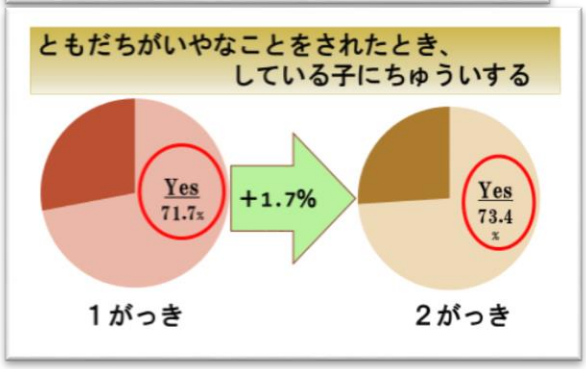
〈事例３　学校全体での運動化による、肯定的評価が増えたアンケート結果〉

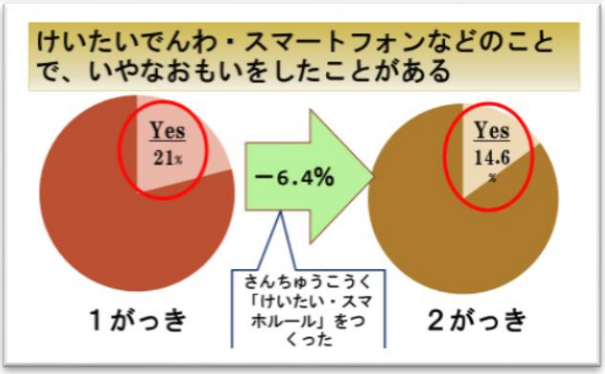
【取組み３】で述べたように、児童会が主体的にＩＳＳ児童集会で「いじめ０に向けて、気持ちを伝えあえる仲間づくり」を呼びかけ、児童会の目標とリンクし、各学年での仲間づくりの取り組みを学校全体で運動化してきました。特に、５月・１０月・２月の仲間づくり月間には、各学年で「遊び大会」を行ったり、「語る会」で本音を語り合ったりする活動を行い、それらの成果をＩＳＳ児童集会でまた共有するというサイクルで取り組みを進めてきました。

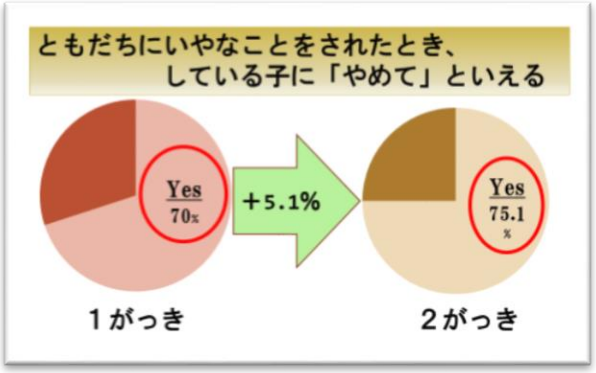
昨年度はその成果が、毎学期に児童アンケートに現れていました。

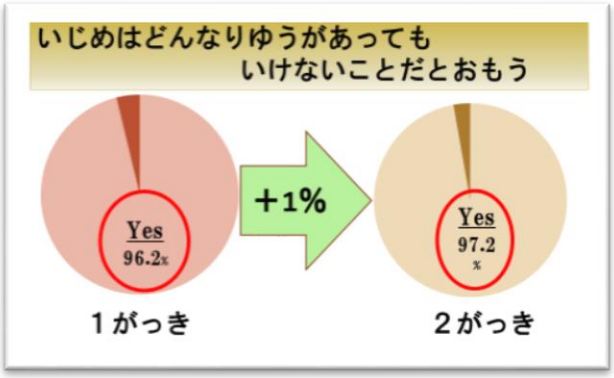












【2016 年度　１月のＩＳＳ児童集会　プレゼンテーションより】

指標８：地域内、国内・国際的なネットワークへ積極的に参加している

先進的に ISS に取り組んでいる他の自治体へ視察に行くと共に、視察受け入れなどを積極的に行っています。

取り組み１・取り組み８・取り組み１６のように、松原市のセーフコミュニティー活動報告会で本校の取組みを毎年報告したり、三中校区子ども会議など地域ネットワークに積極的に参加したりしています。また、「セーフスクールサミット in 豊島」にも参加し、本校の取り組みを報告しました。

【松原市内のネットワーク】

○三中校区子ども会議（２０１５．７）

○三中校区子ども会議（２０１５．１０）

○三中校区子ども会議（２０１６．７）

○三中校区子ども会議（２０１６．１０）

○三中校区子ども会議（２０１６．１１）

○三中校区子ども会議（２０１７．１）

○三中校区子ども会議（２０１７．７）

三中校区 ISS 子ども会議

松原市 SC 活動報告

○松原市子ども議会質問（２０１５．９）

○松原市子ども議会質問（２０１６．８）

○松原市子ども議会質問（２０１７．７）

○松原市セーフコミュニティ報告会（２０１５．９）

○松原市セーフコミュニティ報告会（２０１６．９）

【国内のネットワーク】

○亀岡市曽我部小学校（２０１５．７）

○厚木市清水小学校・東京都豊島区朋有小学校（２０１５．１０）

○豊島区視察 SS サミット豊島で取り組み報告（２０１６．６）

○豊島区より視察受け入れ（２０１６．７）

○豊島区・厚木市へ視察（２０１６．１１）

SS サミット in 豊島

【国外のネットワーク】

○台湾 ISS 推進校視察受け入れ予定（２０１７．１０）

第６章　安全な学校づくりに向けての今後の取り組みと展望

１　これまでの成果

①子どもたちのけがに対しての考え方が変わってきた

ISS の取り組みを始めてから、**子どもたちのけがに対しての考え方が変わってきました**。

けがはおこるものです。ただ、その原因を深く見てみると、不注意によるけがもあれば、偶発的なけがもあり、時には友達からの暴力によって起こるけがもあります。養護教諭や担任が、けがをした時に「どうしてこのけがしちゃったんやろう」と子どもたち自身で考えさせ、自分の言葉で言わせることにこだわり続ける中で、子どもたちは、不注意によるけがを減らしていこうと考えるようになっていきました。

その結果、２０１６年度のけがは１５００件を下回りました。

しかし、昨年事前指導で指摘を受けたとおり、2017 年度に入り大きな体制の変化の中、けがが少し増えています。また今後の方向性のところで詳しく触れます。

②児童が主体的に取り組むようになってきた

三中校区すべての学校にいえることですが、とにかく子どもたちが自分自身で考え、よく動くようになりました。その大きな牽引車となったのは、「三中校区 ISS 子ども会議」でした。

２０１５年に生まれた「三中校区 ISS 子ども会議」でしたが、じつはその前身は、児童会と生徒会の交流会として８年ほど前から続けられていました。そこに ISS の取り組みが始まり、ただの交流に終わらない、三中校区の ISS 取り組み創造の「ブレーンストーミング」がスタートしました。その中で、三中生徒会の先輩方の「安心安全な中学校区作りはわたしたちが引っ張っていく」という、熱い思いに毎回触れることができ、本校の児童会の子どもたちは大きな刺激を受け、本校に帰ってきました。

そこから、本校の児童会の代表は大きく変わりました。ISS 児童集会でも「安心安全な学校作り」のために児童会代表になりたい、と言って立候補する子が増えました。校内の取り組みでも、けがを減らすためにどうすればよいか、いじめのない学校をつくるためにどうすればよいか、考えて動く子が増えました。それ以降の本校の児童会の活躍はめざましく、「セーフィー」の誕生や、校長へのカーブミラーやセンターライン敷設への改善要望、市の子ども議会からのポスター作製など、たくさんの取り組みを作ってくれました。

③地域や PTA が ISS「安心安全な学校作り」の意味を理解し、取り組みに積極的に乗ってきた

当初、なかなか ISS の意味が地域や PTA に浸透しませんでした。その理由はただ一つ。取り組みをしている教職員自身が、その意味をきちんと理解できていなかったことにありました。

しかし、子どもたちが動き始めると同じく、教職員集団としても「ISS 推進委員会」が発足し、ISS の動きが全教職員のものとなってきました。学校通信や学年通信、ホームページでも積極的に、ISS の取り組みを発信し、その中の子どもたちの頑張りを紹介していきました。

もともと「子どもたちのために」いろんな場で学校に来ては、子どもたちの活動を支えてくれていた地域の方々や PTA の大人たちにとって、「子どもたちの安心・安全を守るのは、私たちの仕事」となるのにそんなに時間はかかりませんでした。そして、登校下校時の見守りをはじめ、子どもたちの取り組みのサポートなど、安心安全な学校作りの要としての地域・PTA の活動がスタートしました。

2　現在の問題点

①教職員の異動、児童の進級などに伴う体制の変化への対応（取り組みの水準の維持・発展）

②児童の自尊感情に働きかける「心の安心・安全」の取り組みの深化・充実

③保護者地域への継続した啓発活動と継続性の確保（さらに組織的な取り組みとなるように）

3　今後の方向性

①身体の安心・安全については、ケガをさらに減らす。

前述の通り、２０１６年度取り組みが本格化し、子どもたちが中学校の先輩たちに刺激を受け自主的に動くようになって、大きくけがが減りました。しかし、2017 年度に入り、本校ではけがが増えています。昨年までと違うところは、子どもたちや教職員が、なぜ増えたのかを、真剣に考えたことでした。

4 月は大きく変化がありませんでしたが、5 月 6 月と、今年度の 1 年生 2 年生中心にけがが増えていました。入学やクラス替えなど、大きな環境の変化に、戸惑いなれてきた頃に、けがが増えていることがわかりました。また、友達づくりに自信がなく、不安を抱く子どもたちが、何度も何度も、小さいけがで、保健室を来校していることも見えてきました。

そんな、現在のけがの実態を全校で確認し、学校全体の動きとして 6 年生から 1 年 2 年生に校内のルールを徹底すること、児童会保健部を中心に朝の眼球運動で出会い頭のけがを減らすこと、各学級では気持ちの不安定な子どもたちに、ほっとできる居場所を提供し、気持ちを落ち着かせること、人権学習で自分自身への肯定的な見方を養うことなどが、校内で確認されました。

このように、けがの分析を丁寧に行い、全校あげて取り組みを進めていくことが少しずつできてきています。今後もこの流れを大切にしながら、けがを減らしていく必要があります。

Next step 1

全校あげた組織的な取り組みを推進し、けがの分析を行い、さらにけがを減らす

②心の安心・安全については、自己肯定感をあげる人権学習の授業作りや、「いじめのない学校作り」に向けた集団作りの取組みを継続していく。

厳しい生活実態の中で、なかなか自己肯定感が上がらない本校児童に対して、学校として取り組んでいる人権学習の取り組みを、すべての学年でさらに充実して行えるよう研究していきます。

また、友達関係においていやな思いをする児童をアンケート等で把握しつつ、日常の学級経営の中で子どもの内面を把握し、子どもの心を育てる集団作りの取り組みを強化していく必要があります。

Next step 2

ひとりひとりが大切にされる子どもどうしのつながりを、遊びの取り組みや児童会の ISS 子ども集会を中心にしながらつくる。

③PTA や地域へさらに取組みを広げる。

たくさん述べてきたように、本校には「こどもたちのためなら、何だって手伝う」地域の大人たちがたくさんいます。この 1 年間で、ISS の取り組みに、PTA や地域の方々が本当に数多く参画してくれるようになりました。これからも、ともに安心安全な三中校区を作っていくために、学校と PTA、地域のいろいろな団体と手を携えながら、地域のネットワークの強化に努めます。

Next step 3

ISS ニュースの発行などを通して、PTA や地域大人に ISS の取り組みを理解してもらえるよう努力し、地域と一体となった取り組みをさらにすすめる。

松原市立　布忍小学校

〒５８０－００２３　大阪府　松原市　南新町　１－６－１７

TEL　０７２－３３２－０００１

FAX　０７２－３３２－０００２

http://www10.schoolweb.ne.jp/weblog/index.php?id=2710008